Ⅰ. 北海道行政視察　　Ｈ２７年度

１．再生可能エネルギー（太陽光発電）推進

北海道稚内市　H27.10.6

稚内メガソーラー発電所は、H18年度から独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構による「大規模電力供給用太陽光発電系統安定化等実証研究」施設として整備され、5年間の研究がなされた。研究終了後、経済産業省から認定を受けた「稚内次世代エネルギーパーク構想」の中心施設として活用され、太陽光普及促進に努めている。

積雪・寒冷・強風と厳しい気象条件を有する稚内に比べ、矢板市は全国有数の晴天率を誇り、気候的にも暑すぎず寒すぎず温暖である。日本各地での研究結果をもとに矢板市の条件に適したソーラー発電を検討し、経済産業省の助成を受けながら普及促進することを考慮すべきである。

２．るもい健康の駅とるもいコホートピア構想

北海道留萌市　H27.10.7

H17年「健康都市宣言」を行った留萌市では、H20年、生活習慣病の予防と健康づくりに焦点を当て、「いきいき　ふんわり　思いやり」をキャッチフレーズにした「留萌市健康づくり計画」を市民とともに策定した。

官学民連携の「るもいコホートピア構想」は、予防医学の視点から、地域の医療・健康・介護の課題を洗い出し、調査・研究を通じて実践メニューを提案する。地域住民の協力を得て市民に価値のある医学研究のオープンフィールドを樹立し、大学・企業の研究を誘致して地域の活性化を図るとともに、市民に健康と安心をもたらすことを目指している。主な取り組みとして、介護疾病リスク介入研究推進事業・目のコホート研究事業・東北マリンサイエンス拠点形成事業・医療人材交流拠点形成事業などがある。特筆すべきは、学生・市民参加型の「地域医療実習」や信用金庫で行われる「メディカルカフェ」で、幅広い世代に啓発活動を行っていることである。

視察した「るもい健康の駅」は、「健康は自らがつくるもの」という視点に立ち、市民の健康意識向上や自主的な健康づくり推進のため、新たな交流の場として開設された。ヘルスサポート・メディカルサポート・コミュニティづくりを目的とし、無料でトレーニングや認知症対策ができる他、様々な団体が利用している。

現在矢板市の医療費の割合は、他市に比べて高い。医療費削減と健康寿命を伸ばすために認知症対策やボランティアポイント制度は行われることになったので、留萌市で実行中の他の施策を取り入れて、老いも若きもともに集い、助け合い、お互いに高めあう共生社会・、幸齢社会を実現させたい。

３．地域おこし協力隊（観光）

北海道滝川市　H27.10.8

最大のイベント「菜の花祭り」には国内外から10余万人もの観光客が訪れる滝川市には、７人の地域おこし協力隊がいる。

商業観光課（観光）	２名	観光業務支援・経済効果に寄与する活動
商業観光課（労政）	２名	店舗開業・ものづくり
農政課	１名	地ビールの製造・販売
国際課	１名	外国人観光客の受け入れ
社会教育課	１名	生涯学習アドバイザー

今回は観光の協力隊について話を伺った。ＷＥＢ上でのＳＰＩテスト合格者の中から東京と札幌会場で面接を行い、定住を積極的に考える若者を選んだそうだ。２名とも札幌市在住の３０代前半の男性だ。イベント支援、食による観光客誘致の企画・運営、魅力を発信し地域活性化に寄与する活動、特性を活かした魅力ある自然体験プログラムの企画・実施、特産品の掘り起こし、地域活性化と経済効果に寄与する活動などを行っている。１名は観光協会に勤務し、ＷＥＢサイト「タキコレ」やフェイスブックでのＰＲ活動、地元ＦＭラジオパーソナリティを務めて観光協会の業務支援を行っている。フェイスブックは１年もたたずに1400いいねを突破し、「フェイスブック講座」も実施している。２名とも滝川市を気に入ってくれているが、継続して定住してもらうには、就職か起業の必要がある。現時点で明確な進路は決定していないそうだ。

矢板市でも来年度から「地域おこし協力隊」を募集するが、地域おこしだけでなく、定住促進につながるような人事を期待したい。また矢板市には10年前から「矢板武塾」があり、高校生をはじめとする協力隊がいて、様々な提案をしてくれている。今年度は「中高生の街中カフェ」と「木幡の太々神楽」であった。実現に向けて取り組み、関係者以外の中高生たちの郷土愛も目覚めさせ、地域おこしと定住促進につなげていきたい。

II. 大阪・瀬戸内行政視察　Ｈ２７年度

１．地域分権制度

大阪府池田市　H27.10.14

「地域分権制度」は、H19 年度から始まった「自分たちのまちは自分たちでつくろう」という全国初の制度である。個人住民税の１％の予算の使い道を市民に委ねる制度で、市民によって構成される「地域コミュニティ推進協議会」が、地域の為になるよう予算の使い道について市に提案する。提案額は各地域ごと人口・面積を考慮して上限（概ね 800 万円程度）を設定する。地域と市との協働により、地域のニーズに合った事業を実施している。行われている事業は主に、安心安全、福祉、環境、広報、コミュニティ振興の５分野である。今迄に、安全パトロール隊巡回や花いっぱい運動、高齢者等配食サービス事業、小さな絵本館推進事業などが実施されている。

地域コミュニティ推進協議会を支える取り組みとして、ボランティア職員の配置、リーダー養成講座、地域分権フォーラムなどを行っている。私も社交ダンス全国大会で何度も池田市を訪れ、イベント開催の際の手際の良さ、親切丁寧な対応に感動していたが、地域をあげての取り組みの賜であるとわかった。

矢板市においては、遠藤市長の「市民力ＵＰ」の掛け声のもと希望団体には助成金が出され、数々のイベントがボランティアによって開催され、地域ごとに様々な行事も行われている。今後は各区への予算づけをしてさらに市民力アップを図るのも良いだろう。

2. 神山プロジェクト「創造的過疎から考える地方創生」

徳島県神山町　H27.10.15

「創造的過疎」とは、過疎化の現状を受け入れ、外部から若者やクリエイティブな人材を誘致することによって人口構成を健全化させたり、多様な働き方を実現できるビジネスの場としての価値を高め、農林業だけに頼らない、バランスのとれた持続可能な地域を目指すものである。

「神山プロジェクト」としては「サテライトオフィス」「ワークインレジデンス」「神山塾」の 3 つの施策を行っている。その結果、H27 年度 9 月現在 12 社がサテライトオフィス設置、本社移転、新会社設立。計 30 名の新規雇用があり、3 年後迄に 30 程度の新たな雇用が生まれる見込みである。またビストロ、カフェ、パン屋、ピザ屋、総菜屋、靴屋、ゲストハウスなどが開業し、これまでに類を見ない地方における新たな商店街モデルが誕生した。

「神山塾」としては、厚生労働省の基金訓練・求職者支援訓練による後継人材の育成を行い、6 期 77 名終了後、移住約 50%、SO 就職 10 名、婚活カップル 10 組が誕生している。

「神山アーティスト・イン・レジデンス」は、見学に訪れる観光客と制作に訪れるアーティストにより「ひと」に焦点をあて、神山町の持つ「場の価値」を高める「アートによるまちづくり」である。芸術家を招待し、住民が制作の支援を行っている。芸術や文化への創造

性を持ったひとの集結により、旧住民と新住民の知恵と経験が融合され、人が人を呼ぶ連鎖と循環で地域再生を目指している。

矢板市においても、矢板コリーナ、北山住宅地は比較的文化レベルの高い方が日本各地から移り住んでいる。災害無しで、交通機関に恵まれ、家賃を払う感覚でマイホームが手に入る。片岡駅周辺が整備され、首都圏通勤者もいて、まさしく神山町をモデルにしたまちづくりとＰＲが定住促進につながり、矢板の可能性をさらに高めるであろう。

3. 子育て応援都市宣言＆「11の鍵」定住促進事業

兵庫県相生市　H27.10.16

相生市は矢板市とほぼ同じ人口で、H23年に「子育て応援都市宣言」をし、給食費無料化をはじめとする11の定住促進事業を行っている。私が初めての一般質問で調査した自治体だったので視察を楽しみにしていた。

出産祝金支給（出産時5万円）は行われている自治体が多いが、子育て応援券交付（保育所一時預かり・延長保育、ファミリーサポート、任意の予防接種などに利用できる応援券　2万円分）マタニティータクシークーポン交付（妊婦が医療機関や外出時利用できるタクシー助成券　1万円分）は便利である。市立幼稚園保育料無料、私立への補助は子育て世代にはかなり嬉しい事業だろう。

矢板市では「子育て日本一」を掲げた遠藤市長により給食費無料化以外のすべての公約が実行されている。子ども医療費無料化は、相生市は中学3年生迄なので、矢板市の「18歳まで」は素晴らしい。学び塾事業は矢板市でもH28年度から行われるし、定住促進事業は既に行っている。子育て施策と定住促進事業とをまとめ、H28年度制作予定のＰＲ映像に加えるとともに、市外・県外への周知ＰＲの仕方を工夫すべきである。施策的には、日本一に近づいているので、「子育て元気都市宣言」をすることで定住促進が加速されるのではないだろうか。

III. 熊本・長崎行政視察　Ｈ２７年度

１．アグリパーク豊野　　熊本県宇城市　H28.1.13

パーク内の「農家バイキングあぶみの」で昼食を取った。品数にも驚いたが、馬肉他貴重な食材が、まさに「おふくろの味」と「若者好みの薄味」で融合され「女性に嬉しいお洒落なスイーツ」で締めくくられる「幸せランチ」に感動した。毎日来ても飽きないかも知れない程レベルの高い食事であった。

矢板の道の駅でも「おふくろの味」を売りにして、理事長の柳田さんと責任者の関谷さんが日々研究を続け、市内外だけでなく県外のリピーターも増えている。泉にスマートインターチェンジができると、道の駅を経由しない客が増える可能性もあるので、様々な道の駅を視察し、いろいろな企画に挑戦して頂きたい。

豊野では、現物産館館長が厳しく指導したため、トラブルもあったそうだが、確実に売り上げを伸ばして、インターネット販売もしている。館内の陳列棚はセブンイレブンのように斜めになっており、見やすく取りやすい。音楽も懐かしのメロディーでつい長居したくなる。売り物を庭に配置するなど、消費者の購買意欲をくすぐる工夫がいたる所で見られた。

矢板の道の駅でも　館長さんをはじめ皆さんが熱心に取り組んでおられ、矢板高校生も加わって売り上げを伸ばしている。フリーマーケット希望者もいるので、今までにないアイデアを募集し、興味付けとさらなる集客を図って頂きたい。

２．定住促進　住むこと・働くこと・子育て応援

熊本県雲仙市　H28.1.14

雲仙市では「住む」「働く」「子育て」を１つにまとめて定住促進事業を行っている。「住むこと応援」では空き家活用促進奨励補助金があり、家財道具などの搬出・片付けの費用や空き家状態確認調査費用の助成がある。住宅リフォームや耐震化、下水道や浄化槽設置・管理費用の一部支援もある。

矢板市の定住促進事業は45歳迄新築50万円だが、雲仙市は55歳迄で固定資産税の２分の１相当額（上限10万円）である。50代は給料も高くなり、定年に向かって自分の引退後について本気で考える時期になるので、Ｕターンや田舎暮らしのきっかけになるだろう。矢板市は高齢社会対策も意欲的に取り組んでいるから「エコツーリズム」「健康長寿」のまちとして健康寿命を伸ばす取り組みと共にＰＲすれば良いのではないだろうか。

「働くこと応援」では新規就農支援事業や空き店舗家賃・改修補助金による商店街活性化推進事業がある。若者や引退者が起業しやすくなることで「にぎわい創出」になる。

「子育て応援」では、妊婦・産婦、乳児から高校生迄の支援や助成が一覧表になっていて非常に解かりやすい。施策を行っていても、知られなければ定住促進につながらないので重要である。お金をかけずにできることなのですぐ取り組んで頂きたい。

矢板市では、雲仙市の３つに加え、高齢者対策事業・物価の安さ・首都圏からの交通の利便性なども入れてＰＲすべきではないだろうか。そのためにもＪＲの氏家始発と宇都宮終点を矢板まで持ってくることが先決である。

３．中心市街地活性化基本計画　市民交流プラザ

長崎県~~長崎~~大村市　H28.1.15

「市民交流プラザ」は「大村市中心市街地活性化基本計画」に基づき、中心市街地の居住人口や交流人口の拡大を図るため、複合的サービスによる地域コミュニティの再生やまちなかの賑わい創出を目的に整備された。日常品やお菓子などの店舗が入ったアーケードと連結された12階建てのビルの中には、市営住宅・キッチンスタジオ・展示場や映画館にもなるホール・コミュニティルーム・こども未来館「おむらんど」・子育て相談室などの施設が入り、まさに屋内型「コンパクトシティ」である。私自身建築物に興味があり、国内・海外のかなりの建築物を見学しているが、随所に配慮が感じられた。予想に違わず、複数の女性建築士が設計に加わっていた。市には数人の建築士も雇われているそうだ。

矢板市で同じレベルのものをつくるのは不可能だが、ココマチのキラキラサロンと子どもの広場にこれらのアイデアを生かし、幅広い世代が集え、お互いに高め合える「気づきの場」づくりができると感じた。